

医療用具、手指・皮膚の消毒に…

外用殺菌消毒剤

(グルコン酸クロルヘキシジン製剤)

ステリクロン[®]液5STERICLON[®] SOLUTION 5ステリクロン[®]液20STERICLON[®] SOLUTION 20

日本薬局方 グルコン酸クロルヘキシジン液

ステリクロン[®]液5

〔禁忌（次の患者及び部位には使用しないこと）〕

- クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- 脳、脊髄、耳（内耳、中耳、外耳）
- 膣、膀胱、口腔等の粘膜面
- 眼

〔注意〕

- 産婦人科用（膣・外陰部の消毒等）、泌尿器科用（膀胱・外性器の消毒等）には使用しないこと。
- 外用にのみ使用すること。

〔要約〕

詳細は、D.I.欄又は製品添付文書等をご参照ください。

ステリクロン[®]液20

〔禁忌（次の患者及び部位には使用しないこと）〕

- クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- 脳、脊髄、耳（内耳、中耳、外耳）
- 膣、膀胱、口腔等の粘膜面

〔注意〕

- 外用にのみ使用すること。

〔要約〕

詳細は、D.I.欄又は製品添付文書等をご参照ください。

外用殺菌消毒剤

ステリクロン[®]液5

STERICLON[®] SOLUTION 5

ステリクロン[®]液20

STERICLON[®] SOLUTION 20

グルコン酸クロルヘキシジンは、グラム陽性菌・グラム陰性菌等に広範囲に抗微生物スペクトルを有するビグアニド系の殺菌消毒剤で、低濃度でも迅速な殺菌作用を示します。

ステリクロン液5は、このグルコン酸クロルヘキシジンを5 w/v%含有し、非イオン性界面活性剤と色素等を添加した赤色の水溶液です。

ステリクロン液20は、日本薬局方グルコン酸クロルヘキシジン液で、グルコン酸クロルヘキシジンを20 w/v%含有する無色～微黄色の水溶液です。

◆ 特性

1. グラム陽性菌、グラム陰性菌等に広範囲に殺菌作用を示します。
2. 低濃度でも迅速な殺菌作用があります。
3. 皮膚刺激性が少ない製剤です。
4. 金属、合成樹脂等の材質に対する影響が少ない製剤です。
5. 重大な副作用としてショックが報告されています。

ステリクロン[®]液5

減容ボトル採用によりゴミ削減

- 500 mL及び5 Lは、折りたたみが容易な角型減容ボトルを採用していますので、使用後のゴミを減らし、廃棄処理コストが削減できます。減容後の容積は、500 mLで約1/4、5 Lで1/5以下になります。



識別性の向上

4面に品名表示

- 500 mLは識別性向上のため、品名を4面に表示し、誤使用防止を図っています。



ステリカ[®]液5

使用濃度	0.5% 水溶液	0.5% エタノール溶液	0.1% 水溶液	0.05% 水溶液
効能・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●手指・皮膚の消毒 ●手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ●医療用具の消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ●医療用具の消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●手指・皮膚の消毒 ●手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ●医療用具の消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●皮膚の創傷部位の消毒 (精製水で調製後、必ず滅菌処理) ●手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒
希釈液	滅菌精製水又は精製水	消毒用エタノール	滅菌精製水又は精製水	滅菌精製水又は精製水
希釈倍数	10倍	10倍	50倍	100倍
調製量	薬剤使用量	薬剤使用量	薬剤使用量	薬剤使用量

希釈法

- ① 薬剤の規定使用量を量る。
- ② 希釈液を加えて全量(調製量)とする。

ステリカ[®]液20

使用濃度	0.5% 水溶液	0.5% エタノール溶液	0.1% 水溶液	0.05% 水溶液	0.02% 水溶液
効能・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●手指・皮膚の消毒 ●手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ●医療用具の消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ●医療用具の消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●手指・皮膚の消毒 ●手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ●医療用具の消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●皮膚の創傷部位の消毒 (精製水で調製後、必ず滅菌処理) ●手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒 ●結膜囊の洗浄・消毒 (精製水で調製後、必ず滅菌処理) 	<ul style="list-style-type: none"> ●結膜囊の洗浄・消毒 (精製水で調製後、必ず滅菌処理) ●産婦人科・泌尿器科における外陰・外性器の皮膚消毒
希釈液	滅菌精製水又は精製水	消毒用エタノール	滅菌精製水又は精製水	滅菌精製水又は精製水	滅菌精製水又は精製水
希釈倍数	40倍	40倍	200倍	400倍	1000倍
調製量	薬剤使用量	薬剤使用量	薬剤使用量	薬剤使用量	薬剤使用量

DRUG INFORMATION

「禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意ください。

商品名	和名	ステリクロン [®] 液5	日本薬局方グルコン酸クオールヘキシジン液／ステリクロン [®] 液20																														
	洋名	STERICLON [®] SOLUTION 5	Chlorhexidine Gluconate Solution／STERICLON [®] SOLUTION 20																														
製造発売元	健栄製薬株式会社																																
日本標準商品分類番号	872619																																
薬効分類	外用殺菌消毒剤																																
規制区分	普通薬																																
承認番号	(7AM)256	(7AM)257																															
承認年月	1995年2月																																
薬価基準収載年月	1995年7月	1995年2月																															
販売開始年月	1995年8月																																
禁忌	禁忌（次の患者及び部位には使用しないこと） (1)クオールヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者 (2)脳、脊髄、耳（内耳、中耳、外耳） 【聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。】 (3)腔、膀胱、口腔等の粘膜面 【クオールヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック症状（初期症状：悪心・不快感・冷汗・眩暈・胸内苦悶・呼吸困難・発赤等）の発現が報告されている。】 (4)眼【外国において重篤な眼障害を引き起こしたとの報告がある。】		禁忌（次の患者及び部位には使用しないこと） (1)クオールヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者 (2)脳、脊髄、耳（内耳、中耳、外耳） 【聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。】 (3)腔、膀胱、口腔等の粘膜面 【クオールヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック症状（初期症状：悪心・不快感・冷汗・眩暈・胸内苦悶・呼吸困難・発赤等）の発現が報告されている。】																														
	※※組成・性状 〈組成〉100 mL中 グルコン酸クオールヘキシジン 5g含有（5w/v%）。 添加物としてポリオキシエチレンニルフェニルエーテル、インプロパノール、赤色2号、香料を含有する。 ※※2003年5月改訂 〈性状〉非イオン性界面活性剤を含有する赤色澄明な液で、芳香がある。 振ると強くあわだつ。 pH：5.0～7.0 比重 d ₂₀ ²⁰ ：1.01～1.03		〈組成〉100 mL中 グルコン酸クオールヘキシジン 20g含有（20w/v%）。 〈性状〉無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦しい。																														
効能・効果 用法・用量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>効能・効果</th> <th>用法・用量</th> <th>本品の希釈倍数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手指・皮膚の消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。</td> <td>10～50倍</td> </tr> <tr> <td>手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療用具の消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。 又は、グルコン酸クオールヘキシジンとして0.5%エタノール溶液を用いる。</td> <td>10～50倍 10倍 (消費用エタノール)</td> </tr> <tr> <td>皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%水溶液を用いる。</td> <td>100倍</td> </tr> </tbody> </table>		効能・効果	用法・用量	本品の希釈倍数	手指・皮膚の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。	10～50倍	手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療用具の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。 又は、グルコン酸クオールヘキシジンとして0.5%エタノール溶液を用いる。	10～50倍 10倍 (消費用エタノール)	皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%水溶液を用いる。	100倍	<table border="1"> <thead> <tr> <th>効能・効果</th> <th>用法・用量</th> <th>本品の希釈倍数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手指・皮膚の消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。</td> <td>40～200倍</td> </tr> <tr> <td>手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療用具の消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。 又は、グルコン酸クオールヘキシジンとして0.5%エタノール溶液を用いる。</td> <td>40～200倍 40倍 (消費用エタノール)</td> </tr> <tr> <td>皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%水溶液を用いる。</td> <td>400倍</td> </tr> <tr> <td>結膜囊の洗浄・消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%以下の水溶液を用いる。</td> <td>400倍以上</td> </tr> <tr> <td>産婦人科・泌尿器科における外陰・外性器の皮膚消毒</td> <td>グルコン酸クオールヘキシジンとして0.02%水溶液を用いる。</td> <td>1000倍</td> </tr> </tbody> </table>	効能・効果	用法・用量	本品の希釈倍数	手指・皮膚の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。	40～200倍	手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療用具の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。 又は、グルコン酸クオールヘキシジンとして0.5%エタノール溶液を用いる。	40～200倍 40倍 (消費用エタノール)	皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%水溶液を用いる。	400倍	結膜囊の洗浄・消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%以下の水溶液を用いる。	400倍以上	産婦人科・泌尿器科における外陰・外性器の皮膚消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.02%水溶液を用いる。	1000倍
	効能・効果	用法・用量	本品の希釈倍数																														
手指・皮膚の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。	10～50倍																															
手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療用具の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。 又は、グルコン酸クオールヘキシジンとして0.5%エタノール溶液を用いる。	10～50倍 10倍 (消費用エタノール)																															
皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%水溶液を用いる。	100倍																															
効能・効果	用法・用量	本品の希釈倍数																															
手指・皮膚の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。	40～200倍																															
手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療用具の消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.1～0.5%水溶液を用いる。 又は、グルコン酸クオールヘキシジンとして0.5%エタノール溶液を用いる。	40～200倍 40倍 (消費用エタノール)																															
皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%水溶液を用いる。	400倍																															
結膜囊の洗浄・消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.05%以下の水溶液を用いる。	400倍以上																															
産婦人科・泌尿器科における外陰・外性器の皮膚消毒	グルコン酸クオールヘキシジンとして0.02%水溶液を用いる。	1000倍																															
※使用上の注意 （使用上の注意の改訂に十分留意すること）	1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること） (1)薬物過敏症の既往歴のある患者 (2)喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者 2. 重要な基本的注意 (1)ショック等の反応を予測するため、使用に際してはクオールヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏症の有無について十分な問診を行うこと。 (2)本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。 (3)創傷部位に使用する本剤の希釈水溶液は、調整後滅菌処理すること。 (4)産婦人科用（腔・外陰部の消毒等）、泌尿器科用（膀胱・外性器の消毒等）には使用しないこと。 3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 (1)重大な副作用 ショック：ショック（頻度不明）があらわれることがあるので観察を十分に行い、悪心・不快感・冷汗・眩暈・胸内苦悶・呼吸困難・発赤等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。 (2)その他の副作用		1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること） (1)薬物過敏症の既往歴のある患者 (2)喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者 2. 重要な基本的注意 (1)ショック等の反応を予測するため、使用に際してはクオールヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏症の有無について十分な問診を行うこと。 (2)本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。 (3)創傷部位又は結膜囊に使用する本剤の希釈水溶液は、調整後滅菌処理すること。 (4)結膜囊等特に敏感な組織に使用しなければならぬ場合には、濃度に注意し、使用後滅菌精製水で水洗すること。 3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 (1)重大な副作用 ショック：ショック（頻度不明）があらわれることがあるので観察を十分に行い、悪心・不快感・冷汗・眩暈・胸内苦悶・呼吸困難・発赤等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。 (2)その他の副作用																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">頻度不明</th> </tr> <tr> <th>過敏症注)</th> <th>発疹・発赤・尋麻疹等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 4. 適用上の注意 (1)投与経路：外用にのみ使用すること。 (2)使用時： 1)原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。 眼に入った場合には直ちに水でよく洗い流すこと。 2)注射器、カテーテル等の神経あるいは粘膜面に接触する可能性のある器具を本剤で消毒した場合は、滅菌精製水でよく洗い流した後使用すること。 3)本剤の付着したカテーテルを透析に用いると、透析液の成分により難溶性の塩を生成することがあるので、本剤で消毒したカテーテルは、滅菌精製水でよく洗い流した後使用すること。 4)血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、濃度、消毒時間等に十分注意すること。 5)石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落してから使用する。		頻度不明		過敏症注)	発疹・発赤・尋麻疹等	注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">頻度不明</th> </tr> <tr> <th>過敏症注)</th> <th>発疹・発赤・尋麻疹等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 4. 適用上の注意 (1)投与経路：外用にのみ使用すること。 (2)使用時： 1)原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。 眼に入った場合には直ちに水でよく洗い流すこと。 2)注射器、カテーテル等の神経あるいは粘膜面に接触する可能性のある器具を本剤で消毒した場合は、滅菌精製水でよく洗い流した後使用すること。 3)本剤の付着したカテーテルを透析に用いると、透析液の成分により難溶性の塩を生成することがあるので、本剤で消毒したカテーテルは、滅菌精製水でよく洗い流した後使用すること。 4)血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、濃度、消毒時間等に十分注意すること。 5)石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落してから使用する。	頻度不明		過敏症注)	発疹・発赤・尋麻疹等	注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。																			
頻度不明																																	
過敏症注)	発疹・発赤・尋麻疹等																																
注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。																																	
頻度不明																																	
過敏症注)	発疹・発赤・尋麻疹等																																
注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。																																	
薬効薬理	抗菌作用 (1)グルコン酸クオールヘキシジンは広範囲の細菌に作用し、グラム陽性菌には低濃度でも迅速な殺菌作用を示す。 (2)グラム陰性菌には比較的低濃度で殺菌作用を示すが、グラム陽性菌に比べ感受性に幅がみられる。グラム陰性菌のうち、Alcaligenes, Pseudomonas, Achromobacter, Flavobacterium, Serratia属等は、まれにグルコン酸クオールヘキシジンに抵抗する菌株もある。		(3)芽胞形成菌の芽胞には効力を示さない。 (4)結核菌に対して水溶液の殺菌作用は乏しいが、アルコール溶液では迅速な殺菌作用を示す。 (5)真菌類の多くに抗菌力を示すが、全般的に細菌類より抗菌力は弱い。 (6)ウイルスに対する効力は確定していない。																														
	〈貯法〉気密容器・遮光して室温保存 ※1)本剤のエタノール溶液は引火性、爆発性があるため、火気（電気メス使用等も含む）には十分注意すること。 (2)本剤の希釈に常水を用いる場合、その中に含まれる硫酸イオン等の濃度により、白色の沈殿を生じることがあるので、希釈水溶液を調整する場合は、精製水を使用することが望ましい。 (3)本剤の希釈水溶液のpHが8以上の場合は、沈殿を生じる。 (4)本剤の希釈水溶液は安定であるが、高温に長時間保つことは避けること。（高圧蒸気滅菌を行う場合は115℃30分、121℃20分、126℃15分で滅菌処理できる。） (5)本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過酸化ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。 (6)開封時、容器の肩部又は底部をもち、液がとびださないように、キャップを開けること。（500mLに記載） ※1999年12月改訂		〈使用期限〉容器等に表示 ※1)本剤のエタノール溶液は引火性、爆発性があるため、火気（電気メス使用等も含む）には十分注意すること。 (2)本剤の希釈に常水を用いる場合、その中に含まれる硫酸イオン等の濃度により、白色の沈殿を生じることがあるので、希釈水溶液を調整する場合は、精製水を使用することが望ましい。 (3)本剤の希釈水溶液のpHが8以上の場合は、沈殿を生じる。 (4)本剤の希釈水溶液は安定であるが、高温に長時間保つことは避けること。（高圧蒸気滅菌を行う場合は115℃30分、121℃20分、126℃15分で滅菌処理できる。） (5)本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過酸化ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。 ※1999年12月改訂																														
※取扱い上の注意	(1)本剤の希釈に常水を用いる場合、その中に含まれる硫酸イオン等の濃度により、白色の沈殿を生じることがあるので、希釈水溶液を調整する場合は、精製水を使用することが望ましい。 (2)本剤の希釈水溶液のpHが8以上の場合は、沈殿を生じる。 (3)本剤の希釈水溶液は安定であるが、高温に長時間保つことは避けること。（高圧蒸気滅菌を行う場合は115℃30分、121℃20分、126℃15分で滅菌処理できる。） (4)本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過酸化ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。 ※1999年12月改訂		(1)本剤の希釈に常水を用いる場合、その中に含まれる硫酸イオン等の濃度により、白色の沈殿を生じることがあるので、希釈水溶液を調整する場合は、精製水を使用することが望ましい。 (2)本剤の希釈水溶液のpHが8以上の場合は、沈殿を生じる。 (3)本剤の希釈水溶液は安定であるが、高温に長時間保つことは避けること。（高圧蒸気滅菌を行う場合は115℃30分、121℃20分、126℃15分で滅菌処理できる。） (4)本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過酸化ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。 ※1999年12月改訂																														
	500mL、5L、18L		500mL、2L																														
文献請求先	健栄製薬株式会社 学術情報部 〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号 電話番号 (06) 6231-5626																																

[詳細は添付文書等をご参照ください。]